

# 世界にひとつだけの植物の宝庫

～屋久島の植物多様性と希少植物～



■ 発行 / 環境省九州地方環境事務所  
■ 問い合わせ先 / 屋久島自然保護官事務所  
〒891-4311  
鹿児島県熊毛郡屋久島町安房前岳2739-343  
TEL:0997-46-2992 FAX:0997-46-2977

## Plant Island Yakushima



地球のいのち、つないでいこう



生物多様性

2021年3月 発行



## はじめに

屋久島は他にはない生態系とすぐれた自然景観が評価され、1993年に日本で最初の世界自然遺産に登録されました。

このような類いまれな屋久島の自然景観や生態系は、ヤクスギだけでなく、実に多種多様でユニークな植物によって形成されています。

本パンフレットでは屋久島の植物多様性の秘密と希少植物の魅力を中心に紹介します。

屋久島の植物相の奥深さを知ること、屋久島の新たな価値に気づききっかけになることを願っています。

## 本パンフレットを読むにあたって知ってほしい語句

### 絶滅危惧種

絶滅のおそれがある種(動植物)のこと。

国内の絶滅危惧種については、環境省が絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト(レッドリスト)をまとめており、2020年版では動物、植物を合わせて合計3,716種が掲載されています。

レッドリストでは、種毎に絶滅のおそれの程度に応じて、右記のとおりカテゴリー分けをして評価しています。例えば、屋久島に産卵のため上陸するアカウミガメは絶滅危惧種IB類(EN)に分類されています。

### ■レッドリストのカテゴリーについて

絶滅(EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅(EW)	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧I類(CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧IA類(CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧IB類(EN)	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧II類(VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧(NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足(DD)	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

赤枠内は絶滅のおそれのある種(絶滅危惧種)を示す。

### 国内希少野生動植物種

環境省では、かけがえのない種を失うことがないように、人の活動や外来種などの影響により特に絶滅のおそれがある種を、種の保存法にもとづいて「国内希少野生動植物種(国内希少種)」に指定しています。この法律をもとに採取の規制、開発行為の規制、生息環境の保全や生息域外保全の推進などの保護増殖事業を行っています。

屋久島に生育する植物のうち、17種(令和3年2月時点)が指定されています(右表)。本パンフレットのp.3-p.8では、国内希少種に★をつけています。

### ■屋久島で確認されている国内希少野生動植物種(植物)

科名	和名	学名
ひかげのかずら科	ヒモスギラン	<i>Phlegmariurus fargesii</i>
こばのいしかぐま科	ホソバコウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>angustata</i>
いのもとそう科	オオバシシラン	<i>Haplopteris yakushimensis</i>
ちゃせんしだ科	フササジラン	<i>Asplenium griffithianum</i>
ひめしだ科	シマヤワラシダ	<i>Thelypteris graciliscens</i>
めしだ科	ヤクシマタニヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>
	ホソバシケチシダ	<i>Athyrium nudum</i>
	アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>
ふうろそう科	ヤクシマフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>yoshiianum</i>
りんどう科	ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>
	ハナヤマツルリンドウ	<i>Tripterispermum distylum</i>
きく科	ヤクシマヒゴタイ	<i>Saussurea nipponica</i> subsp. <i>savatierei</i> var. <i>yakusimensis</i>
ほんごうそう科	ヤクシマソウ	<i>Sciaphila yakusimensis</i>
らん科	ヤクシマヤツシロラン	<i>Gastrodia albida</i>
	タブガワヤツシロラン	<i>Gastrodia uraiensis</i>
	ヒメクリソラン	<i>Hancockia uniflora</i>
	コゴメキノエラン	<i>Liparis viridiflora</i>

本パンフレットにおける科名、和名、学名の表記はGreenList ver1.01に準拠した。

## 屋久島にはどうして多くの植物が息づくのか?

### 雨の島 屋久島

屋久島は約1,400万年前に花崗岩の隆起により形作られました。周囲132kmと小さい島ながら、九州最高峰の宮之浦岳(標高1,936m)を中心とした、1,000メートルを超える山岳が45以上あり、その見た目から「洋上アルプス」と呼ばれています。

黒潮の海から発生する暖かく湿った水蒸気は、屋久島の高い山にぶつかってたくさんの雨を降らせます。年間降水量は、里で4,000mm、山では10,000mmに達します。

この大量の雨が、川や深い谷を刻んで多様な環境を作るとともに、多くの植物を育む源泉となっています。



### 「植生の垂直分布」が種の多様性のカギ



海岸は亜熱帯、低地の山間部は暖温帯、山頂付近は冷温帯と、一つの島の中で日本の気候帯のほとんどが見られ、それぞれの気候に応じて様々な植物が生育しています。



こうした美しい自然景観と生態系が評価されて、屋久島は世界自然遺産に登録されました。



### 屋久島には固有種や希少種が多い

このように、屋久島は自然環境の多様性から1,900種以上の植物が生育しています。そのうち、屋久島を分布の南限とする種は200種以上、北限種も多数確認されています。

また、高地において小型化した種や、岩場や溪流といった特殊な環境に生育する種など、多様な環境に色々な植物が適応していることから、多くの固有種(世界で屋久島にのみ生育している種)や希少種が確認されています。

例えば、山頂部にはヤクシマリンドウなどの岩場の植物が、暖温帯域の尾根部にはヤクタネゴヨウなどがその環境に見事に適応して生育しています。

屋久島固有の植物は、屋久島で絶滅すれば世界からなくなることになるので、しっかりと守っていく必要があります。



# 低地の原生的な照葉樹林と国内希少種

## 屋久島の低地照葉樹林のかけがえのなさ

照葉樹林とは、スダジイやイスノキなど、多雨気候に適応した光沢のある葉をつける常緑広葉樹で形成される森のことを言います。照葉樹林はかつて関東の平野部から西日本を広く覆っていた森ですが、現在では土地開発などによって山間部や離島などでわずかしか残っていません。

屋久島には照葉樹林が広く残ってはいるものの、約150年以上伐採歴の無い原生的な照葉樹林はわずかしかなか、貴重な森となっています。

このような森では、驚くような太さの巨樹がびっしりと着生植物を身にまとい、私たちを出迎えてくれます。

実際にこれらの照葉樹林では種の多様性がとても高いことが近年の調査によって明らかになってきました。

原生的な照葉樹林にはあまり目立たない生物たちも多くなります。小さな虫、落ち葉、倒木を分解するキノコやカビなどの菌類、森でしか生きられない鳥たち。こうした様々な生き物が複雑に関係しあって豊かな森の生態系をつくっています。

このため、例えばある花を守ろうとした場合、その花だけを守るのではなく、周りの生き物を含め環境そのものを広く守る必要があります。屋久島の低地の照葉樹林にはまだまだ謎が多く、これから新種が見つかる可能性も高いと言われています。未来のためにも森全体を良い状態で保つことがとても重要だと言えます。



タブガワヤツシロラン

## タブガワヤツシロラン(らん科) (*Gastrodia uraiensis*)

EN



- 分 布: 国内では屋久島のみ  
(2015年に日本新産種)
- 開花期: 4～5月

屋久島と台湾の一部にのみ生育する菌従属栄養植物の地生ランです。花は2cm程度の筒状の形、枯れ葉色をしており、地面すれすれに咲き、危うく踏みそうになります。

開花期がとても短く、開花期以外はイモのような形で枯れ葉に埋もれているため、どこにいるのかわからないという何とも不思議な植物です。

ちなみに、菌従属栄養植物とは、菌類と共生し、菌から栄養分をもらって生きている植物の総称です。光合成で栄養を作る必要がないので、葉っぱはありません。

## ヤクシマソウ(ほんごうそう科) (*Sciaphila yakusimensis*)

CR

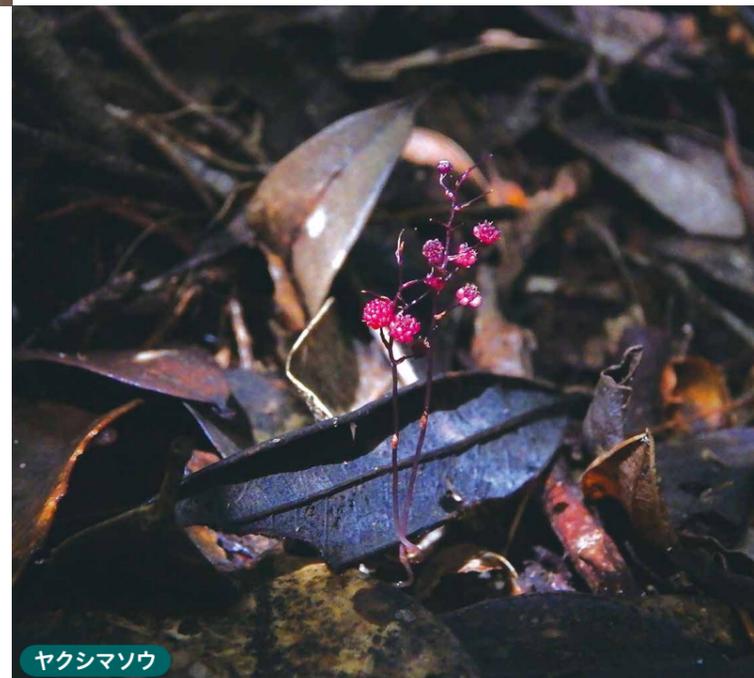
固有種



- 分 布: 屋久島のみ  
固有種(2016年新種記載)
- 開花期: 8月

ヤクシマソウも菌類に寄生して生きている菌従属栄養植物の仲間です。花や実のひとつひとつの大きさはわずか直径約1mm、花茎は細く髪の毛のような細さです。全体的にきれいな赤紫色をしています。

ヤクシマソウやタブガワヤツシロランが自生しているということは、その環境が私たちの目には見えない豊かな菌類の生育地であることを示しています。枯れ葉や枯れ木が長い年月、菌類に分解され循環を繰り返している古い森であるからこそ、多様な光合成をやめた植物を育む生態系が形作られていると言えます。



ヤクシマソウ

## コラム 屋久島で発見される新種

近年、屋久島では花の咲く植物の新種発見が相次いでいます。これは全国的にもとても珍しいことです。

2006年の世界的な珍種ヤクノヒナホシの報告以降、タブガワヤツシロラン、タブガワムヨウラン、タケシマヤツシロラン、クロシマヤツシロラン、ヤクシマソウなど、続々と新種や国内新産種の発見が相次いでいます。

屋久島の環境の多様性が、自生する植物の多様性を育てていることは間違いないでしょう。特に原生的な照葉樹林は、これからも新種の花が見つかる可能性が高い場所です。

■ 深い森の中に未知の花があるかもしれない、と考えただけでわくわくしますね。



ヤクノヒナホシ

CR

固有種



ヤクシマヤツシロラン

CR



# 低～中標高域の溪流と国内希少種

## 沢は着生植物やシダの宝庫

屋久島は急峻な地形、豊富な雨量が特徴的で、沢や深い谷が多く存在します。これら沢沿いは日照時間が短く、空中湿度が高く保たれています。湿度を好むコケやシダの種数や存在量は世界的にみても極めて多く、木や岩に着生する植物も多く生育しています。

このような苔むした森は最も屋久島らしい雰囲気を感じることができ、白谷雲水峡やヤクスギランドなどでも楽しめます。一方で、人里に近い低地の谷にも独特の生態系を構成した貴重な森がわずかにあり、絶滅危惧種が相次いで見つかっています。台湾と屋久島にのみ生育する植物があるのも特筆すべき点です。



## 着生は一つの生き方

着生とは岩や木に固着して生きることです。他の植物から水や栄養を吸収して生きる寄生とは異なります。多くの着生植物は、土中に根を張らないため、水や栄養を取るのに大変ですが、シカや虫に食べられにくいという良い面もあります。

しかし、着生植物は環境の変化にとっても弱い上に、総じて成長が遅く繁殖力が低いので、気候変動や土地開発に弱い弱です。



オオバシシラン

## ヒモスギラン(ひかげのかずら科) **CR** (*Phlegmariurus fargesii*) ★

●分 布:国内では屋久島のみ

屋久島では個体数がとりわけ少なく、老齢木に着生するシダの一種です。

樹木から垂れ下がるシルエットがなんとも美しいシダです。近年の大型台風による倒木で消滅した個体もありました。大木を見るとつつい見上げてヒモスギランがないか確認してしまいます。



ヒモスギラン

## アオイガワラビ(めしだ科) **CR** (*Diplazium kawakamii*) ★

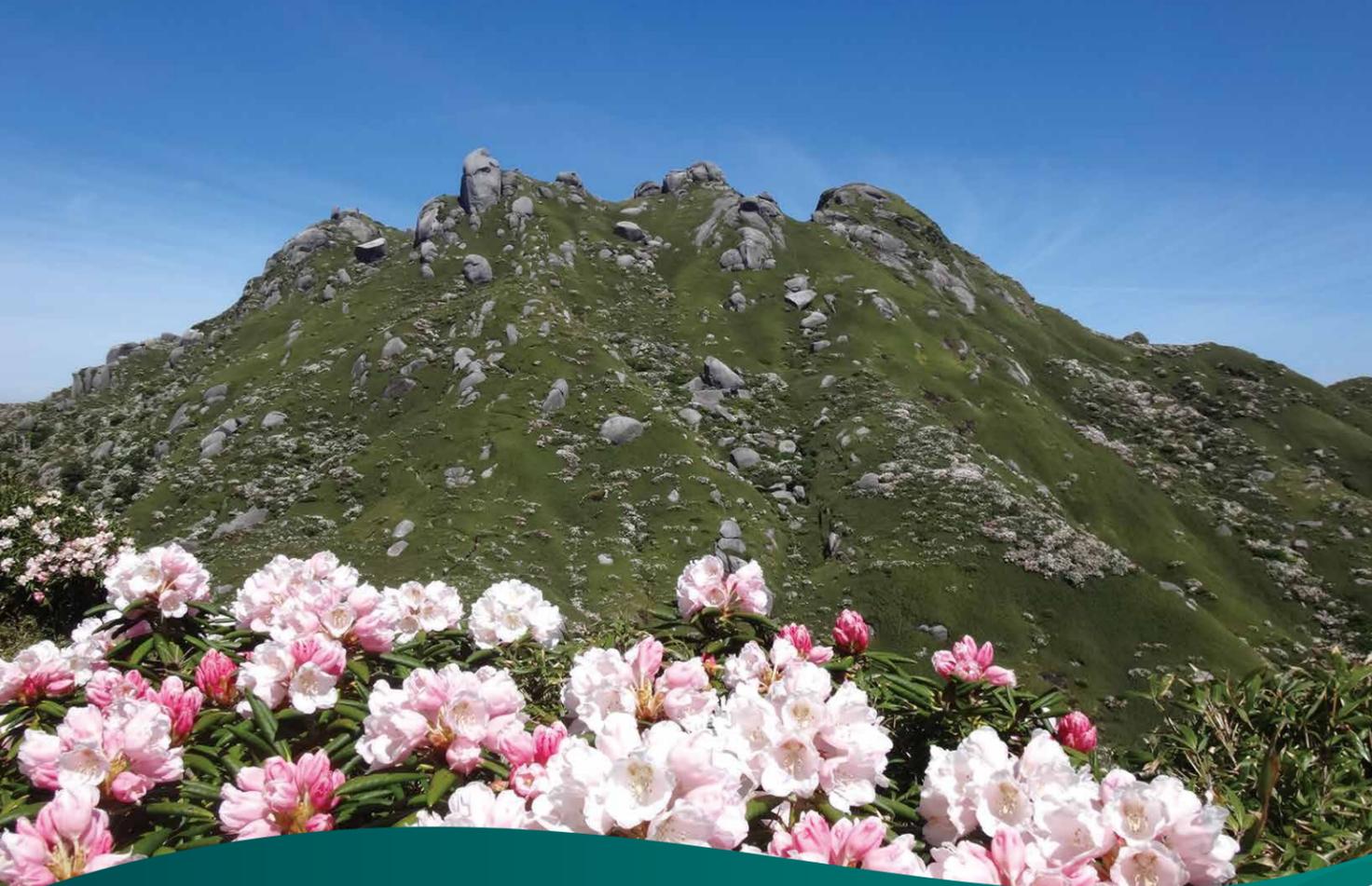
●分 布:国内では屋久島のみ

地生(着生ではなく、地面から生える)のシダの一種です。葉の軸をよくみると、小さなイガ(トゲ状の突起)が見えます。ただ、硬さが十分でないためなのか、ヤクシカに食べられてしまっています。ちなみに屋久島にはトゲ植物が多く、それはヤクシカから守るためと考えられますが、アオイガワラビのイガはあまりシカ対策には向いていないようです。



イガ

アオイガワラビ



# 屋久島の奥岳（高標高域）に 生育する国内希少種

## ヤクシマダケの草原広がる奥岳

屋久島の高山帯では、森林限界を超えてヤクシマシャクナゲやアセビなど低い樹木が点在するばかりで、多くはヤクシマダケというササと花こう岩の巨岩が織りなす壮大な景観が広がります。

台風による風雨、厳冬期の風雪など生き物にとっては厳しい環境条件ではありますが、だからこそ、そこでしか育たない固有種も多く存在します。

### ヤクシマリンドウ(りんどう科) (*Gentiana yakushimensis*)

**EN**  
固有種

- 分 布: 屋久島のみ
- 開花期: 8月～9月

花こう岩の亀裂から顔をのぞかせるように生えています。花期の晴れた日に、とてもきれいな青い花をひっそりと咲かせます。ヤクシマシャクナゲと並んで屋久島の山を代表する花といえるでしょう。かつて高山植物の人気が高かった頃に盗掘被害にあい、登山道沿いでは多くが姿を消してしまいました。

花を見つけても採ることはせず、眺めて楽しみましょう。



ヤクシマリンドウ



ハナヤマツルリンドウ

### ハナヤマツルリンドウ(りんどう科) **EN** (*Tripterispermum distylum*)

固有種



- 分 布: 屋久島のみ
- 開花期: 10月

小さく目立たないものの、非常にきれいな花を咲かせるツル植物です。ヤクシマダケのまぎわの日当たりの良い環境を好むため、登山道沿いでも比較的多く見られます。近年の豪雨の影響もあり、登山道が荒廃し、生育環境が危ぶまれています。よく似た種類にヤクシマツルリンドウがありますが、全くの別種です。

### ヤクシマフウロ(ふうろそう科) **CR** (*Geranium shikokianum* var. *yoshiianum*)

固有種



- 分 布: 屋久島のみ
- 開花期: 7～9月

ヤクシマダケ群落の中にひっそりと桃色の可憐な、大きさ2cm程度の花を咲かせます。ヤクシマフウロは個体数がごく少ない上、観察した限りでは花つきは良くなく、周辺に実生も少ないため、繁殖力は低いのかもかもしれません。見つけると幸せな気持ちになります。



ヤクシマフウロ

## コラム 小型化した屋久島固有種

奥岳では色鮮やかな花々が季節ごとに咲きます。そのなかでも小型化した高山植物が見られるのが面白いポイントです。九州本土や本州の山で共通する種類も、屋久島では小型化して生育し花を咲かせます。

小さくなった理由には、ヤクシカから見つかりにくいからなど諸説ありますが、小さい方が生き延びるのに有利な何等かの要因があったことが推測されます。



ヒナボウフフ

固有種



ヤクシマウスユキソウ

**CR**  
固有種



ヤクシマシオガマ

**VU**  
固有種



ヤクシマコオトギリ

固有種

## 屋久島の固有種・絶滅危惧種の減少要因と対策

### ■乱獲および盗掘

かつて、高山の小型化した花やラン類が特に珍重され、多くの株が採取されました。ランやシダは成長が遅い種が多いため、一度個体数が減ると回復が難しいです。ぜひ自然のままで楽しみましょう。法で規制されているものを採取するのは当然ダメです。



### ■自生地の減少

絶滅危惧種が多く生育している原生的な照葉樹林は、里地にも近いことから森林施業や土地開発にともない、自生地が破壊されることがあります。各分野で生物多様性に配慮した取り組みが進んでいます。



### ■ヤクシカ

近年、ヤクシカが増えたことにより、希少な植物が食べられ数が減ってしまったり、新しい芽が食べられて次世代の木や草が生えなかったりしています。

ヒト・ヤクシカ・自然の共生を目指して、専門家に意見を伺いながら、行政機関と地域の関係機関で協力して科学的かつ順応的管理を実施しています。



### ■気候変動

世界的な気候変動は屋久島でも例外ではなく、豪雨や巨大台風などが脅威となっています。極端な豪雨や強風は林床の土壌を洗い流し、着生植物のすみかである大木をなぎ倒します。気候変動による影響を長期的にモニタリングしていくことが大切です。



## 種を守ることはなぜ大切なのか？

### 種は、生命の長い歴史の結晶

人間を含むすべての生き物は長い時間をかけて今の姿になりました。生物種は生命の長い歴史の結晶であり、それ自体がかけがえのない価値を持っています。

しかしながら、現代では、地球温暖化や開発による生育地の破壊などさまざまな要因によって、種の絶滅のスピードはかつてないほどに速まっています。

### 生物の多様性はわたしたちの暮らしを支える

私たちの暮らしに必要な不可欠な食料や水の供給、気候の安定などは、生物多様性を基盤とする生態系から得られる自然の恵みによって支えられています。また、地域の風土(お祭りや郷土料理など)も多様な生態系や生き物と密接に結びついています。複雑なバランスで成り立っている自然を守るためには、一つ一つの種を絶滅から守っていくことが大切です。

#### 屋久島における生物多様性のめぐみ

##### ■暮らしの基盤

食べ物、木材など



海の幸



木材の利用

##### ■生き物が生み出す大気と水

酸素の供給、二酸化炭素の吸収、水の供給、豊かな土壌



##### ■豊かな文化を支える

自然と共生してきた知恵と伝統



豊漁豊作祈願のえびす様



永田集落の亀女踊り

##### ■自然に守られる私たちの暮らし

山地災害、土砂流出の軽減、海岸付近の防風林、防砂林



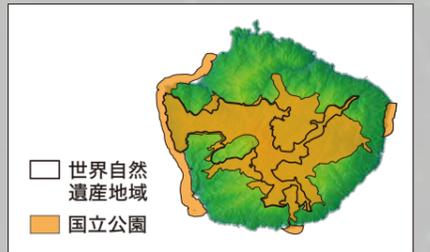
## 屋久島の自然保全に関する法的な規制

屋久島のかけがえのない自然は、さまざまな法的な規制によって守られています。また、世界遺産地域はこれらの法的な規制の区域内に含まれています。

規制区域内での許可を得ていない植物の採取などは法律に抵触する恐れがあります。

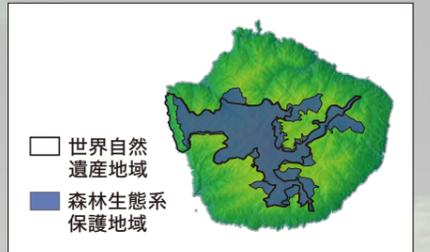
### 国立公園

国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法という法律に基づいて国(環境省)の指定を受け、管理されています。屋久島では約42%が国立公園に指定されています。



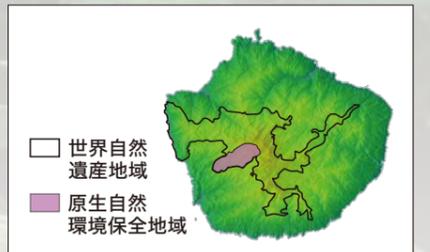
### 森林生態系保護地域

森林生態系保護地域は、国有林のうち原生的な天然林を保存することにより、自然環境の維持などに役立るとともに、これらの森林を後世に引き継ぐことにしている森林です。原則として人手を加えずに自然の推移に委ねる「保存地区」と、保存地区の緩衝帯としての役割を果たす「保全利用地区」に区分されています。



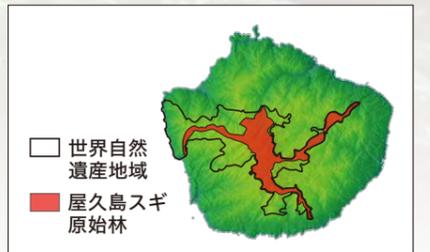
### 原生自然環境保全地域

屋久島南西部の小楊子川流域のヤクスギを主とした原生林は自然環境保全法に基づき、日本で5箇所しかない「原生自然環境保全地域」に指定され、様々な行為が規制されています。



### 天然記念物

重要な国民的財産のうち、動植物等に関して学術上価値が高い物は文化財保護法に基づき天然記念物に指定されています。屋久島では「ヤクシマカワゴロモ生育地」「屋久島スギ原始林」(右図)などが天然記念物に指定されています。



## 屋久島の植物のことについてもっと知りたい方へ

### 屋久島世界遺産センター / 屋久島自然保護官事務所

鹿児島県熊毛郡屋久島町  
安房前岳2739-343

TEL : 0997-46-2992



屋久島世界遺産センター



公式FB

※本パンフレットに記載の内容は、令和3年2月時点の情報に基づいています。